



2016年XCリーグの勝者も飛び立った茨城県足尾山エリアにて。撮影：杉山祥一

2017年度JHF事業計画と予算

2017年度がスタートしました。公益社団法人として7年目を迎えたJHFは、今年度事業計画と予算を決定しました。その概要をお知らせします。

事業方針

2016年度は、パラグライダー、ハン
グライダーの女性フライヤーによる
世界記録更新という活躍がありました。
その一方、死亡事故は前年より減少し
ましたが重傷事故も多く発生しており、

安全対策はこれからも重要な課題です。

安全に飛行できることは普及の前提条件です。今後も教本作成や安全セミナーなどを通じて事故の防止を図っていきます。また、フライヤー自身のケガを保障するJHF総合保障制度の加入者の拡大を図ります。

フライヤー人口は底を打った状態ですが、増加に転じる気配は見られません。パラグライディング、ハンググライディングが町おこしに役立っている

例もあり、そのような活動も含め今後
も普及活動に取り組んでいきます。

事業の具体的内容

PG=パラグライディング

HG=ハンググライディング

MPG = モーターパラグライディング

【理事会・事務局の事業】

- 1 愛好者増加の推進
- 2 HG・PGのイメージ向上・宣伝告知

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

- 3 全国のフライヤーの実態把握と安全対策検討
- 4 委員会の主体的活動のバックアップ
- 5 ボランティア制度の活用促進
- 6 フライト中の情報交換を可能にする無線機の普及
- 7 フライヤーのための損害保険の告知と普及
- 8 スクールのための施設賠償・損害保険の告知と普及
- 9 第三者賠償責任保険の付保継続
- 10 JHF白書の編纂
- 11 寄付・助成金獲得への取り組み
- 12 その他定款の定める管轄事項

【常設委員会・事務局（広報出版）の事業】

●安全性委員会

- 1 事故情報の収集と管理
- 2 事故調査活動
- 3 機体登録制度の推進
- 4 PG・MPGパイロット安全セミナーの推進（教員・スクール事業委員会と合同）
- 5 海外情報収集と告知（DHV infoの翻訳など）
- 6 セーフティーノーツの管理

●教員・スクール事業委員会

- 1 PG・MPGパイロット安全セミナーの開催（目標：13地区で開催 安全性委員会と合同）
- 2 HG教本改訂版の発行
- 3 PG教本改訂版の発行
- 4 PG学科試験の見直し
- 5 スクール支援のための事業計画と実施
- 6 教員学科検定の集合教育（12月）
- 7 パイロット更新制度の研究
- 8 タンデム証の更新制度の研究

●HG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 HGS（HGシリーズ）とフライトコンテスト（旧クロスカントリーリーグ）の管理運営と活性化
- 3 委員会ホームページの管理運営
- 4 各種大会の公認および後援申請に対する審議および承認
- 5 クラスⅠ日本選手権の開催（2017年2月9日～12日、和歌山県紀の川）
- 6 クラスⅤ日本選手権の開催（時期

- 未定、茨城県足尾山）
- 7 クラスⅠ世界選手権（ブラジル、8月6日～19日）に選手派遣
- 8 スポーツクラスの活性化検討
- 9 SNSを活用したタイムリーな情報発信
- 10 FAI（国際航空連盟）技能記章取得の制度を推進
- 11 公式記録公認の制度を推進
- 12 ライブスコアリングシステムの導入検討

●PG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 ウェブ事務局／ホームページ管理
- 3 Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、アキュラシーJリーグの管理
- 4 J2リーグおよびアキュラシーリーグの活性化・支援
- 5 XC日本選手権の開催（時期、開催地未定）
- 6 アキュラシー日本選手権の開催（時期、開催地未定）
- 7 XC世界選手権（イタリア、7月1日～15日）に選手派遣
- 8 アキュラシー世界選手権（アルバニア、5月5日～14日）に選手派遣
- 9 ホームページの新調・充実（タイムリーな大会結果のアップ）
- 10 アキュラシーターゲットマットの新調

●制度委員会

- 1 JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理
- 2 理事会諮問事項への答申
- 3 IPPIカード（国際技能証）に準じたHG・PG技能証規程の改定
- 4 HG教本の全面改訂作業に協力
- 5 FAI技能記章、公式立会人に関する事項の研究
- 6 フライヤー登録証付き技能証の研究
- 7 ウェブでのフライヤー登録システムの研究（外国人ビジターを含む）
- 8 ウェブでのクレジットカードによる支払いの研究
- 9 JHFの歴史編纂に協力

●補助動力委員会

- 1 MPGパイロット安全セミナーの開催
- 2 ホームページの活性化。動画、注意喚起などをアップ
- 3 下総自衛隊安全会同への参加

- 4 全国の実情把握・会員増加のための取り組み
- 5 事故対策への取り組み

●ハングパラ振興委員会

- 1 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討
 - －フライヤーズボイスの運用（継続）
 - －大会などイベントの活用（他委員会と連携）
 - －引越し、転勤などによるエリア移動の問題の分析と対応策検討
 - －学生が卒業に伴いやめてしまう問題の分析と対応策検討
 - －加齢による影響の軽減策など検討（他委員会と連携）
- 2 各種イベントへの協力
- 3 HG教本・PG教本改訂への協力

●役員選任実行委員会

- 1 2017年度役員選任についての検討
- 2 2017年総会における役員選任の準備と実施

●事務局（広報出版活動）

- 1 JHFウェブサイトの運営（スクール紹介サイトを含む）
- 2 JHFレポートの発行
- 3 関連媒体への情報提供（HG・PG関連雑誌に情報を提供）
- 4 一般媒体などへの情報提供（HG・PGの紹介、イベントやエリアの紹介など）
- 5 スクールなどへの情報提供
- 6 日本のHG・PGの歴史編纂事業

【その他の事業】

上記のほか、JHFの目的達成に必要な下記の事業を行う

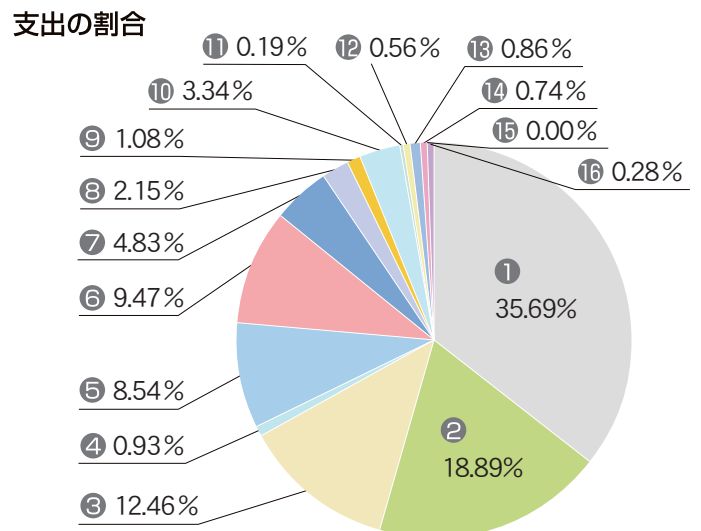
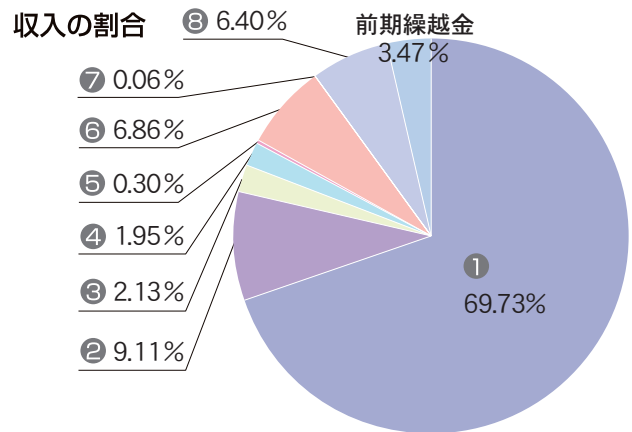
- 1 技術に関する事業
- 2 教育に関する事業
- 3 安全に関する事業
- 4 競技に関する事業
- 5 その他普及啓蒙に関する事業

予算

2017年度予算の収入と支出の内訳を次ページのとおりグラフにしました。JHFの活動を支えているのは会員の皆さんの会費や技能証申請料などです。これらの収入が、JHFのどのような活動に支出されるのか、各事業にどのくらいの割合で活かされるのか、ご覧ください。

収 入 (単位:円)	
① 会費等	37,586,500
② 技能証の発行に基づく収入	4,908,000
③ 競技に関する収入	1,150,000
④ 教本等の頒布に伴う収入	1,050,000
⑤ 検定会参加費	160,000
⑥ 補助金	3,700,000
⑦ 機体登録費	30,000
⑧ その他	3,450,000
前期繰越金	1,868,002
合 計	53,902,502

支 出 (単位:円)	
① 会員サービスのために	19,218,000
② JHFの維持運営のために	10,172,000
③ 都道府県連盟の補助のために	6,710,000
④ 公益事業の推進のために	500,000
⑤ 世界選手権、アジア選手権や 検定会のための積立	4,600,000
⑥ 広報・普及活動のために	5,100,000
⑦ 日本選手権や国体デモスポのために	2,600,000
⑧ 競技のために	1,160,000
⑨ よりよい教習環境のために	580,000
⑩ 委員会活動のために	1,800,000
⑪ 補助動力のために	100,000
⑫ 学生の補助のために	300,000
⑬ 事故調査や安全のために	464,000
⑭ 海外との交流のために	400,000
⑮ 制度のために	0
⑯ 総会のために	150,000
合 計	53,854,000



役員任期満了に伴う改選について

JHF役員選任実行委員会

JHF役員の任期は、定款第27条により「選任されてから2年目の定時総会の終結の時まで」と定められており、本年6月13日の定時総会において、現役役員（理事・監事）の任期満了に伴う改選が行われます。

前号でもお知らせしましたが、役員選任はJHF役員選任規約に基づいて右記のスケジュールにて行われます。

JHFの日頃の活動を理解し、運営を積極的に担っていただける方を広く募ります。ハンググライディング・パラグライディングの未来のために、空の仲間のために活動したいという方、ぜひ立候補をお願いします。

なお、JHF定款および上位法である法人法に基づく電磁的手段による会議を積極的に活用する目的で、電子メールならびに電話による円滑かつ確実なコミュニケーションが可能な方であることを、理事の具体的な資質として求めます。

[スケジュール]

- 役員選任公示日（立候補受付開始）
4月3日（月）午前10時
 - 立候補締切日
5月1日（月）午後5時（立候補が郵送の場合は、当日消印有効とする）
 - 立候補者公示日 5月16日（火）
 - 定時総会（投票日） 6月13日（火）
- [立候補の資格]

立候補届出時に有効なJHFフライヤー登録者で、いずれかの都道府県連盟（JHF正会員）から推薦を受けた方なら誰でもJHF役員に立候補する資格があります。

* 昨年の定時総会で役員選任規約改定が認められ、今回よりJHF正会員からの推薦については、住民票所在地以外のJHF正会員からの推薦も可能となりました。

[定数]

役員定数は、理事6名以上9名以下、監事1名以上2名以下です。

選任のための役員立候補者の募集活動や選任事務は役員選任実行委員会が実行し、総会当日に正会員の投票により選任決議を行います。

開票後、過半数の賛成票を得た立候補者のうち、役員定数内の得票上位者が役員として議決されますが「理事のうちいずれか1名とその親族その他特別の関係ある者の合計数は、理事現在数の3分の1を超えてはならない」「公益法人を除くこの法人以外の団体の理事又は使用人、その他これに準ずる相互に密接な関係にある理事の合計数は、理事現在数の3分の1を超えてはならない」という条項に抵触する場合、該当立候補者の中から得票上位者を役員とします。

立候補に必要な書類等、詳細はJHFウェブサイトでご確認ください。お問い合わせはJHF事務局まで。

TEL.03-5834-2889

info@jhf.hangpara.or.jp

23名のリーダーが教員検定員として活躍します

JHF教員検定員研修検定会を3月14日から16日まで茨城県つくばみらい市にて開催しました。

2016年度までの教員検定員の任期満了を迎え、2017年度からの検定員を認定するために、全国から各都道府県連盟の推薦を受けた23名の候補者に参加いただき、教員・スクール事業委員会が中心となって3日間の研修・検定を行いました。

スポーツ指導者の役割、リパック認定証講習、最新情報、事故分析、実技検定基準のすり合わせなどの研修のほか、特定非営利活動法人熱気球運営機構会長の町田耕造氏による「観客の集まるイベント、行政の協力の獲得」、またANA整備士の篠原洋介氏による

「ヒューマンエラーの防止」の特別講義もありました。

JHF教員検定員制度は、全国各地においてハンググライディング、パラグライディングの健全な発展と安全確保、技能レベルの標準化など、指導的役割を担っていただく方を認定する重要なものです。

学科試験、5分間スピーチ、実技検

定により合格した下記の23名の方が、今後3年間、教員検定員として活動します。

北海道	田代 茂樹
青森県	古川 正司
山形県	金井 誠
埼玉県	下山 進
神奈川県	中村ヤスヲ
群馬県	伊尾木浩二
山梨県	岩橋 亘
栃木県	殿塚 裕紀
茨城県	板垣 直樹、福田 武史
静岡県	阿倉 聡、加賀山 務
	平木 啓子、目黒 敏
京都府	坂本三津也
鳥取県	片岡 義夫
徳島県	椋本 清治
香川県	橋田 明夫
福岡県	小林 秀彰、角町 正彦
長崎県	小川 勝良
熊本県	西本 一弘
沖縄県	井藤 志暢

今後、各検定員の紹介や検定員からの情報もJHFレポートに掲載していく予定です。



安全性委員の目黒氏によるリパック講習。



熱気球イベントについて語る町田講師（左）と北野委員。



篠原講師は航空機整備の経験に基づき安全について講義。

県連だより

■愛媛国体デモスポ競技開催

愛媛県ハング・パラグライディング連盟

愛媛国体デモンストレーション競技のパラグライディング大会が、今年の9月9日（予備日10日）に内子町神南山にて開催されます。

内子町は愛媛県の南予地方の町で愛媛県のほぼ中央部に位置し、県都松山市から西南約40km。JR特急や高速自動車道を利用して約25分で市街地に到

着します。

総面積は299.50km²で、その広がりには東西に30.0km、南北17.9km。肱川の支流である小田川が町の中心部を流れ、市街地の回りを田園地帯が囲んでいる自然豊かなところで、「町並み、村並み、山並みが美しい、持続的に発展するまち」を将来の目標として頑張っている町です。

その南側に鎮座する神南山は、標高500mと700mにテイクオフを持ち、ランディング場は小田川河川敷という

好条件。ハンググライディングの時代から多くの方が飛びに來られ、今日まで続いている昔からのエリアです。

国体デモスポ大会当日は多くの方々にお越しいただき、大会を盛り上げていきたいと考えております。たくさんの方の参加をお待ちしております。

詳しくは愛媛国体ホームページをご覧ください。

<http://www.ehimekokutai2017.jp/kokutai/kyogi/demosport/sanka/>



このエリアでの大会を楽しみにおいでください！

*国体デモンストレーション競技

愛媛国体では、パラグライディングを含む28のスポーツ（バラエティに富んでいます）のデモンストレーション競技が行われます。正式競技とは異なり都道府県対抗の得点対象にはなりませんが、それぞれのスポーツがその魅力をアピールするチャンスです。

JHF総合保障制度2017年度募集スタート

フライヤー自身の怪我などに備える保険、「JHF総合保障制度」の今年度募集が始まりました。以下は東京海上日動火災保険からJHFフライヤー会員の皆様へのお知らせです。

東日本大震災から6年が経ちました。また、2016年には熊本地震が発生し甚大な多くの被害をもたらしたのは記憶に新しいです。被災された地域の皆様、そのご家族、関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、復興に向けご尽力されている関係の皆様方に敬意を表するとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

■『JHF総合保障制度』とは

任意でご加入いただくフライヤーの為の傷害保険です。搭乗中はもちろん、お仕事でも補償されます。また、地震、噴火またはこれらによる津波等の災害によるおケガも対象となります。

ご注意くださいのですが、フライヤー登録をすると自動加入されるのは第三者賠償責任保険です。本保障制度はあくまでも任意でご加入いただく必要がございます。

■2017年度募集がスタートします

今年度で12年目を迎える本保障制度

は、2017年3月1日現在、約865名の会員の皆様にご加入いただいております。

まずは、引き続き安全なフライトをお心がけいただき、事故なくおケガなくフライトを楽しんでいただくことが大切ですが、万が一の時のための支えとして、本保障制度をご利用いただけますようお願い申し上げます。

◆JHF総合保障制度の特徴

- ・国内国外を問わず、パラグライダー（含むモーターパラグライダー）搭乗中はもとより、お仕事や日常生活中のおケガ、および遭難の際にかかった捜索費用等の補償を致します。
- ・地震、噴火またはこれらによる津波での傷害についても補償対象となります（この場合は救済者費用保険金につきましては対象となりませんのでご注意ください）。
- ・団体割引5%が適用されますので、保険料が割安です。

◆現在ご加入の皆様へ

更新のご案内を4月上旬に郵送させていただきます。大切なお知らせで

すので、書類到着後、必ず内容のご確認をお願い致します。その上で、以下ご対応をお願い致します。

- ☐ プランに変更あり→期日までに訂正の上ご返送ください。
- ☐ プランに変更なし→自動継続となります。ご返送不要です。
- ☐ ご解約→必ずご返送ください。

◆新規ご加入の皆様へ

ご加入をご希望される場合は、同封のパンフレット等をよくお読みいただきお申込みください。

※締切厳守…5月7日（月）必着

【保険に関するお問合せ先】

東京海上日動火災保険代理店
（株）東海日動パートナーズTOKIO
池袋支店

〒170-0013

東京都豊島区東池袋1-35-3

池袋センタービル10階

Tel03-6907-4622

（月～金曜日 9:00～17:00）

Fax03-6907-4623

Email: info.ikebukuro@tnpgrp.jp

フライヤー登録と同時に加入する保険（第三者賠償保険）では、ご自身のおケガは補償されません！

JHFの動き

6月13日に東京都内の会場で JHF定時総会を開催します

6月13日（火）、昨年度と同じ会場、東京都北区の北とぴあで、2017年度JHF定時総会（通常総会）を開催します。報告事項は、2016年度の事業報告ならびに決算報告・監査報告、2017年度の事業計画と収支予算。決議事項は、貸借対照表及び損益計算表（正味財産増減計画書）の承認、そしてJHF役員の選任を予定しています。

役員（理事・監事）の選任は2年に一度。今号3ページの「役員の任期満了に伴う改選について」のとおり行います。

総会の傍聴については5月17日以降にJHFウェブサイトでご案内します。傍

聴をご希望の方は、この案内をご覧のうえJHF事務局にお申し込みください。

JHF役員の立候補受付を開始 立候補締切は5月1日です

現役員の任期満了に伴って新役員の選任を行います。4月3日（月）に役員選任公示、理事・監事への立候補の受け付けを開始しました。

自由にフライトできる環境を守るため、空の仲間のために頑張ってください。詳細はJHFウェブサイトの会員ページ、トピックス欄からご覧ください。立候補の締め切りは5月1日（月）17時です。郵送の場合は当日消印有効。

パラグライディング世界選手権 日本代表選手が決まりました

今年開催のアクィラシーならびにクロスカントリーのパラグライディング世界選手権に日本代表として出場するパイロットが決まりました（選手の顔ぶれは今号14ページに掲載）。アクィラシーは5月5日～14日にアルバニアで、クロスカントリーは7月1日～15日にイタリアで開催されます。

2018年カレンダーの写真を募集 お気軽にご応募ください

毎年好評のJHFカレンダーを来年も制作します。今号16ページに掲載のとおり写真を募集中。ぜひご応募を！



委任を含め35か国の代表が出席したCIVL総会。

国際航空連盟 (FAI) の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会 (CIVL) の総会が、例年どおり2月に開催されました。日本を代表するデレゲート (委員) として岡芳樹さんが日本航空協会より派遣され、北野正浩さんがオブザーバーとして参加。以下は岡さんと北野さんからの報告です。

PG=パラグライディング

HG=ハンググライディング

XC=クロスカントリー

日程：2017年2月2日～5日 (各部会：2日・3日、総会：3日・4日)

場所：オーストリア、ザルツブルグ HOTEL HEFFTERHOF

参加国：アルバニア (マケドニアに委任)、アルジェリア (フランスに委任)、オーストリア、ベルギー、ボスニア・ヘルツェゴビナ (セルビアに委任)、ブルガリア、カナダ (アメリカ合衆国に委任)、中華人民共和国、台湾、コロンビア、チェコ、デンマーク、フィンランド (ノルウェーに委任)、フランス、ドイツ、ギリシャ (オーストリアに委任)、香港 (台湾に委任)、ハンガリー、イタリア、日本、リトアニア、マケドニア、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、セルビア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス (イタリアに委任)、トルコ、イギリス、アメリカ合衆国、計35か国。

【報告・議決事項】

FAI関連

■FAIは、エアーゲームズツアー (約3日間の日程のミニ・ワールドエアーゲームズ ((複数の種目：スカイダイビング、バルーン、模型、パラモーター、PGアクロ、PGアキュラシー、ドローンなど)) を同時開催する) ともい

2017年CIVL総会レポート

るイベントを年に3～4回開催してエアースポーツをプロモートしてゆくプランに、昨年度で約5000万円を使用し、今年度は約4000万円を予算計上している。全てが順調にいけば2018年後半に最初のイベントを開催する。

■FAIは各種目 (模型、バルーン、グライダーなど) が使用できるようなコンペティション・マネージングソフト (いわゆる大会情報、エントリー受付、大会結果など扱う) を開発中で、そのためのウェブサイトをFAIのサーバーの中に用意する。今年の夏にポーランドで開催されるワールドゲームズ (スカイスポーツではパラモーター、キャノピーパイロティング、グライダーアクロの3種目が参加) で試行し完成させる計画。上手くいけば、CIVL向けのものが作成される予定。

■ブライティングは今後3年間のメインスポンサーとなり、新しくDHLもスポンサーとなった (これによりフライト機材の運搬が安く効率良くできるようになることが期待される)。

■2017年3月20日、香港で、FAI Air Sports in Asia Summit (スカイスポーツが目覚ましい発展を遂げているアジアにおいて、さらに大きく発展するように関係者が一堂に会し議論をする会議) が開催される。

■次回のWAG (ワールドエアーゲームズ) は2020年、アメリカのアルバカーキまたはマレーシアで行われる予定。

■2018年にインドネシアで開催されるアジア競技大会に、PGのXCとアキュラシーが競技として参加する。テスト大会は今年の9月に行われる予定。

全ての種目共通関連

■カテゴリー1大会の公認料を前のルールに戻すことが承認された。(2016年では大会の参加人数で4レベルに分けて、各レベルに決まった定額を公認料とすることになっていたが、レベルが結果的にまたぐようになった場合に公認料が大きく変化することはオーガナイザーにとって好ましくないとのことで、参加人数に3.2ユーロと競技日数をかけたものとする。)

■これまで、コンプレインの提出時間はローカルルールで決められることに

なっていたが、それに対する返答の時間は特に決めるようにはなっていなかった。そこで、コンプレインに対する時間を原則24時間とすることに決定された。

■カテゴリー2大会において、海外選手の参加申し込み締め切りを、大会開始前60日より早くに設定できないこととなった (これまでは15日)。

■カテゴリー2大会がカテゴリー1大会のテスト大会であった場合、参加枠の50%を海外選手に割り当てなければならないこと、またオーガナイザー枠として5名分のワイルドカードを設けることが可能となった (これまでは通常のカテゴリー2大会のルールにより25%)。また、海外選手のエントリー締め切りは大会開始90日より早くに設定できない。

HG&PGXC関連

■S7A (セクション7A：HG・PGのXC関連) で、レストデイの取り方に関して、現在は、競技フライトが6日連続行われた場合にレストデイを取ることとなっている。これまで競技フライトとは何かが問題となることがあった (2015年のコロンビアでのPGXC世界選手権) ので、フライトした日が6日連続した場合レストデイを取ることとし、フライトした日の定義 (例えば、大会本部からテイクオフまでが近い場合には、テイクオフまで移動し、選手が1人以上テイクオフした場合、あるいはウィンドウがオープンした場合はフライトした日とする。また大会本部からテイクオフが遠い場合は、テイクオフまで移動した時点でフライトした日とするなど) をローカルルールに記載することとする。

■ソフトウェアに関しては、結論は出せないで、理事会に一任することが決定。理事会としては、現在使用しているGAPとFSを今後どうするかに関して昨年の総会でFLYTECのEwaldに依頼することにしたが、諸般の事情で断念。現在のものをつぎはぎで対応するのは難しく、全く新規に開発するのは高額となることから、See Youを利用する方向。2017年5月から試用し、手を加えて、2018年5月から公式に使

えるようなプランを考えている。

■大会におけるログのダウンロードに関して、オーガナイザーが望めば、ログのダウンロードは直接行い、Eメールによるものは受け付けないこととする。またログはタスク結果がオフィシャルになるまで保存しておくこと。

■ブルガリアからの提案（リーディングポイントの新しい考え方：選手の進行方向の半径Rkm、角度A度以内の円錐に他の選手がいるかどうかでリーディングしているかを判断する）は承認され、実際の大会で試行して結果良好であれば、カテゴリー1で使用する方向。進捗状況は理事会が管理する。

■GPS高度とQNE高度を記録できるフライトレコーダーのみが得点計算のために認められる。

■侵入禁止高度の判定にはフライトレコーダーに記録されたQNE高度（必要とあれば得点計算ソフトにより修正されたQNH高度）が主として使用される。QNE高度に問題があった場合に限りGPS高度を考慮する。

■タスクトップがペナルティを受け得点がゼロとなった場合は、そのパイロットをABSと同じ扱いにして得点計算を再計算することとする。タスクトップの次のパイロットが同様に得点ゼロになったら、同様にABS扱いにして再計算する（タスクトップがゼロ点にならないまで繰り返す）。これは、雲中飛行して極端に良い結果を出した場合に、スコアリングが大きく異なり他のパイロットに対する影響が無視できなくなるほど大きくなることが実際に起きたことを是正するため。

HG関連

■GAPルール、6.2、コントロールゾーンの定義で、HGではターンポイントシリンドラーのみであったが、PGと同じターンポイントシリンドラー、ESシリンドラー、ゴールの半シリンドラーとする。それに合わせて6.3.1もPGと同じ文言とする。

■12.1、ESSに到達したがゴールできなかった場合、これまでHGではスピードポイントを80%に減らすことになっていたが、これをPGに合わせてスピードポイントをゼロとすることとする。

■2.5.11.1、XCカテゴリー1大会での大会成立要件の文言について、「各タスクのトップ選手の得点の合計が1500

点となったとき」となっているのを「各タスクのトップが得られる得点の合計が1500点となったときとする」に変更する。

■公認大会におけるWPRSポイントが、現在のところタスクが2本成立すれば80%、3本成立すれば100%与えられるようになっている（成立内容にかかわらず）。これを、単なる本数ではなく獲得可能なタスク得点の合計点が4000点になると100%になるような曲線にする。また、得点計算はGAPを使用し、ノミナルタイムを1.5時間以上に設定することとする。

■パイロットあるいはチームリーダーは大会オーガナイザーの役員（競技の結果に影響のある）として働くことはできないこととする。

■プッシュルールの改定：近接する列は同じ「ランチ・ゾーン」に属するものとされ、「プッシュ」があった場合、その列だけでなく、同じ「ランチ・ゾーン」に属する全ての列に適用される。ランチ・ゾーンから離れた場所の列には適用されない。

■2017ブラジル世界選手権について、主催者への勧告案：

○女子と総合は別のタスクにする。
・ただしコースの方向はおおむね同じにする

・ランチウィンドウオープンとスタートゲートの時間を別にする。

○飛行禁止空域（エアスペース）について、侵入したら即スコアゼロにはせず、100mの緩衝帯を設け、徐々に減点されるようにする（提案では、エアスペースの70m手前から指数関数的に減点を始め、0mで10%程度の減点、そこから先30m侵入するまでは大幅に減点し、30m以上の侵入は0点）。

・上記の数式はFAISチュワードが作成し、委員会・理事会の承認を得ること。

・エアスペースの100m以内に近付いた選手は、減点しないがリザルトに名前を載せて警告とする。

・ペナルティーの方法は、ローカルレギュレーションに掲載し、今後の大会でも使えるようにする。

PGXC関連

■2019年PGXC世界選手権はマケドニアに決定。

■SAFE PRO PARAは承認された。

PGアキュラシー関連

■アキュラシーのジャッジングコードが改訂され、イベントジャッジの仕事として、リローンチの決定を下すことを追加し承認された。

■アキュラシー大会において、国別エントリー枠はローカルルールに明記される。国別チームサイズは世界選手権では7人（同一性は最大5人）とし、大陸選手権ではローカルルールに明記されることとする。

■S7B（アクロ）とS7C（アキュラシー）では、参加枠に空きがあった場合に、参加選手の決定を大会開始30日（アクロ）あるいは60日（アキュラシー）までに行うとしているが、その期限を切らずに大会開始直前まで可能にするように文言を改訂する（これは主に、オーガナイザーの収入面を考慮した意向）。

■2019年PGアキュラシー世界選手権はセルビアに決定。

■SAFE PRO PARAは承認された。

* 次回CIVL総会はポルトガルのポルトで2018年2月の第1週末に開催される。

* HGディプロマは、アメリカ合衆国の推薦によりDonnita Hallに決定。

* ペペロペスメダルは、イギリスの推薦によりBen Philpottに決定。

* FAISスポーツメダルは、理事会の推薦により、2016年カテゴリー1選手権の全主催者およびPGワールドカップ協会に決定。

* 役員選挙の結果

会長：

Stephane Malbos（フランス 再選）

副会長：

Igor Elzen（スロベニア 再選）

Dimikowski Goran（マケドニア 再選）

Zeliko Ovuka（セルビア）

Jamie Shelden（アメリカ合衆国）

事務局：

Mitch Shipley（アメリカ合衆国）

会計：

Andy Cowley（イギリス）

HG委員長：

Jamie Shelden（アメリカ合衆国 再選）

PG委員長：

Adrian Thomas（イギリス 再選）

PGアキュラシー委員長：

Riikka Vilkkuna（スウェーデン）

PGアクロ委員長：

Claudio Cattaneo（スイス 再選）

何よりも安全に飛ぶということ

2017年も安全にフライトを楽しみたい。フライヤーの誰もがそう思いながら新しい年を迎えたことと思います。しかし、1月から3月までの間に3件の死亡事故が発生してしまいました。

1月の事故は台湾のエリアで発生。パラグライダーでスパイラルを行い、回復操作ができぬまま地面に激突してしまったものです。2月の事故は、パラグライダーでツリーランディングした際に、身体が逆さに宙吊りの状態となり血流が滞ったために死に至ったと考えられます。また3月の事故は、ハンググライディング大会の競技中、着陸しようとしたところ十分に高度を下げないうちにダストデビル(強い乱流)に叩かれ墜落してしまったと推測されます。

雪が消え桜前線が北上し、冬の間は活動を休止していたフライヤーもエリアに戻る季節。強い上昇風が期待でき

るクロスカントリー飛行のシーズン。このわくわくする春に事故を起こさないために、長くフライトを楽しむた

めに、どのようなことを注意するべきなんでしょうか。ベテラン教員の皆さんからの助言をいただきました。



サーマルを乗り継いでいく楽しさも安全であってこそ。(写真は記事に関係ありません。)

春のフライトで注意すること パラグライディング教員 ガイチ

スカイスポーツをする際に、一番アクシデントが起きやすい時期が春です。

その理由としては、いくつかの要因があり、それが重なることでリスクが増えてしまいます。

その要因

- ☐ 冬にクローズしていたエリアが再開し久しぶりに飛行する(飛行感覚がまだ戻っていない)。
- ☐ 最も南風が強い時期である(テイクオフ、ランディングのリスクだけでなく、風に流されたり、キャノピーが潰されたりする)。
- ☐ まだ寒い日も多く、体の動きが悪いにもかかわらず無理に練習してしまう(足がもつれて転倒したり、無理な動きで筋肉や関節を痛めてしまう)。
- ☐ 昼は暖かいが、上空の寒気はまだ強いいため風が荒れやすく、強弱、風向の変化が激しい(乱気流による潰れ、墜落、アウトサイドランディングをする)。

アクシデントの例

【強風でのテイクオフ】

- ☐ ラインが絡んでいて取りやめようとしたが、そのまま足が浮いてしまい方向修正できず山チン。
- ☐ リバースでテイクオフしようとしたら、振り向く前に持ち上げられてしまって怖い目にあった。
- ☐ 傾きの修正をしようとしたが、その前に足が浮いてしまい横の木に激突。
- ☐ テイクオフしたとたん一気に上昇し、そのまま少しずつバックして山の裏に墜落。
- ☐ キャノピーが一気に立ち上がり、かぶりを抑えきれず前縁潰れを起こしてスタチン。
- ☐ 走ったときに、足がもつれて転倒。

【強風でのランディング】

- ☐ 木や障害物のローターでキャノピーが潰されて墜落。
- ☐ 手前にショートしてアウトサイドランディング。民家に降りてしまった。
- ☐ 高度が無いにもかかわらず、前進するためアクセルを使用して、潰されて落下。

- ☐ 地面付近でアップダウンが激しく、思い通りにコントロールできずにハードランディング。捻挫してしまった。
- ☐ 地面付近で風向きが急に変わり、ランディング横の立ち木に激突。

その対処

- 上記の例は、では、どのように対処したらよいのか？
- ☐ しっかと準備運動をする。
 - ☐ いきなり飛ぶのではなく、立ち上げ練習を行い機材に慣れる。
 - ☐ 天気予報を事前に確認し、気象の予想をたてる(インストラクターやベテランの人に聞く)。
 - ☐ 風が強くなるのを予め想定して飛ぶ。

最も大事だと思われるのは……

- ☐ 風が強いときは飛ばない。また、風が強くなりそうなら早めに降りる。

いつでも「春の風はコワイ！」というのを脳裏に！

心の余裕をもって楽しく安全フライトを続けましょう。

クロスカントリーフライトでのランディングでは、初めて降りる場所ということからいろいろな危険が付きまといまいます。しかし、そんなクロスカントリー時のランディングも、いくつかの簡単な注意点を守っていただければ、大幅に事故を防ぐことは可能なのです。

クロスカントリーフライトを安全に行うために、実際に私が過去行ってきたクロスカントリーフライトでのランディング時の注意点を以下にご紹介します。

●最も広く安全なランディング場所に降りること

クロスカントリー時のランディングについて、その時に降りられる場所の中でも、とにかく最も広く安全なランディング場所を選択することは、鉄則です。

「回収が楽だから」とか、「機体が汚れないから」などの理由で、狭く危険性の伴うランディング場所を自ら選択することは、とても愚かな行為です。

もし、そのような理由で危険性の高いランディング場をいつも選択していると、例えば100回のそのようなランディングの中では、何度か危険を伴うランディングが起こる可能性が出てくると思います。

クロスカントリー時のランディングでは何が起こるか分かりません。リスクをできるだけ避けるために、とにかく最も安全に降りられるランディング場所をまずは選択してください。

●風向きを確認すること

クロスカントリー先でのランディングでは、風向きを正確に知ることが重要です。しかし、上空からではその重要なランディング情報でもある風向きも、なかなかわかりづらいものです。

そんなわかりづらい風向きではありますが、次のようなことを実施すれば、かなりランディング場所の風向きを知ることができます。と思います。

とにかく観察。

地上にある、ありとあらゆるものに注意し、風向きを知る方法です。

オーソドックスなものでは、鯉のぼ

りや旗、煙などありますが、ほかにも木の揺れる様子や池など水が溜まっている場所での波の立ち方などを観察すれば、風向きを知ることができます。

360度旋回を繰り返す。

360度旋回を繰り返せば、あなたの機体は風下へと流れていきます。これでもある程度は正確に風向きを知ることができます。ただし、旋回ははじめでは、地上に目標物を決めて、それを中心に旋回を始めることが重要です。目標物を決めておかないと、風が弱い場合、どっちに流れているのか、なかなか判断できないものです。

トイレットペーパーなどの切れ端を空中から投げてみる。

この方法はかなり地上の風向きを正確に知ることができます。なるべく塊にならないようにフワフワ落ちる状態にして投げるのがポイント。ただし、投げたペーパーは必ず回収してくださいね！

●ダストデビルなどの乱流の存在を早く知ること

クロスカントリーフライトは、サーマルを乗り継いで距離を伸ばしていきます。

しかし、運悪くサーマルの乗り継ぎがうまくいかなかった場合は要注意！

なぜならば、サーマルなどの上昇気流が存在しているそのすぐ下の地上の風は、とても荒れていることが多いからです。これは上空で空気が大量に吸い上げられているのですから、仕方ありません。

このような空域でのランディングでは、ダストデビルなどの強い乱流が発生しやすいので要注意です。

ダストデビルなどの乱流は、土煙や木の揺れ方、さらには空中に巻き上げられるゴミなどで知ることができますので、できるだけ早い段階で見つけてください。

このような強い乱流は、できるだけ遠くに逃げるしか安全を確保する方法がなく、もし遭遇してしまった場合、もう安全の確保は無理と考えてください。

また、クロスカントリーフライト以外でのフライトにおいても、大きな、

あるいは、強いリフトが存在し、なかなかグライダーが降りない時は、ランディングを急いで無理に降りようとすることは絶対に避けてください。

このような時、地上付近で発生している強い乱流での事故率は非常に高くなります。そのまま自然に降りるまで待つか、あるいは、自然にグライダーが下りていくような空域まで移動し、安定した風の中で安全にランディングしてください。

●地上に人が存在しているときは、その人の視界に入るところへランディングすること

春の田畑では、農作業をされている方が結構いるものです。

クロスカントリーフライトでのランディングでは、もし、どこに降りてもたいして安全性には変わらない場所の場合は、なるべく、このような農作業をされている方の視界に入る場所へランディングすることを、私は皆さんにお勧めしています。

これは、ランディング後、その土地に降ろさせていただいたことに対するご挨拶もあるのですが、もし、万が一にもランディングでアクシデントが起こり、あなたが身動きできなくなる、あるいは、意識を失うようなことがあった場合、そのような作業をされている方に助けていただける確率がとても高くなるのです。

他人の善意をあてにすることはよいことではありませんが、しかし、この場合、命にかかわることにもなりかねないので、私はクロスカントリーを行う方にはこの方法を今までお勧めしてきました。

以上のことを守っていただくだけで、あなたのクロスカントリーフライト時のランディングでの安全性はずいぶん向上すると私は思います。

決して無理をせず、フライト後、必ず仲間とあの旨いビールを飲めるように、安全なクロスカントリーフライトを心がけてください！

今年は残念ながら1月、2月とパラグライダーによる死亡事故が続きました。この2件とも防ぐことができた事故だと考えられ、より一層残念に思います。

1月の事故は台湾で発生しました。パイロットが自らスパイラルを実施して失敗し、地面に激突。楽しいはずの海外フライトが、一つ誤った判断で取り返しのつかない事故となってしまったのです。

2月の事故は、ラインの絡みによりテイクオフして間もなくツリーランディング。そして、ハーネス下部に引っかかった木の枝の影響で、パイロットは逆さまで宙吊りとなり、血流の問題が発生し死亡したものです。

安全性委員会では、過去の事故と同様の事故を起こさないよう注意喚起を

し続けてきました。フライヤーの皆さんも十分に理解されていると思いますが、同じような事故を繰り返さないために、過去の事故を冷静に振り返ってみるのが大切だと思います。

事故を振り返るとき、「エラーチェーン」を考えることをお勧めします。何をすれば／何をしなければ事故を防ぐことができたのか、順序立てて考えることによって、今後のフライト時の判断に役立ててもらいたいと思います。

1月の事故では……

適正な機材

↓

ランディング上空（僅かなブッシュ）

↓

地上約200mと低空

↓

スパイラルの判断

↓

技術不足

↓

地面激突

↓

救急処置・搬送

↓

死亡

2月の事故は……

スタートチェック

↓

ライズアップ

↓

フライトコース取り

↓

ツリーランディング

↓

20m以上の木に引っかかる

↓

逆さまで宙づり

↓

消防も駆けつけ救助に1時間

↓

死亡



国内はもちろん海外でも安全第一でフライトを。(写真は記事に関係ありません。)

JHFでは事故防止に役立てるため、事故（アクシデント）はもちろん、事故にはならなかったものの危なかったこと、ヒヤッしたりハッとしたこと（インシデント）の情報を収集しています。お気軽にJHF事務局までメール、FAXなどでお知らせください。

第三者に迷惑をかけない配慮を！

海岸など一般の方がいる場所でのフライトについての注意

春が来ると観光で外出される方などが増え、フライトエリアの周囲でも観光客など一般の方々の姿が多くなります。

一般の方々はハンググライダーやパラグライダーに詳しいわけではないので、自分の近くをフライトされるだけで危険を感じて、JHF事務局に電話で問い合わせられることもあります。

特に、海岸でのフライトについては、危険を感じた一般の方々からのご意見や苦情が増えています。

散歩している方や観光客が増える時期の海岸では、民家が近い場所でも、地上にいる人との距離を大きく確保して、第三者が危険を感じることをないように、また第三者に迷惑をかけないように注意してフライトされるようお願いします。

モーターパラグライダーについては、年間を通して騒音に対する問い合わせが多く、「条例で禁止できないのか」とJHF事務局に苦情を訴えてこられる方もいます。

これからもフライトの自由を守り

続けるためには、モーター音を聞かされる人の立場に配慮してフライトすることが必要です。フライトルールの再確認をお願いします。

フライトルールは次のサイトで確認することができます。ぜひご覧ください。

補助動力委員会サイト

<http://jhf.hangpara.or.jp/pgpc/index.htm>

委員会からの提言→フライトマナー、フライトルール

JHF 型式登録機／機材情報登録機

フライヤー会員登録、技能証制度、機体登録制度が、JHF活動の根幹である三本柱です。この三本柱のひとつ、機体登録制度をより広く知っていただくために、新規登録機情報を掲載します。

現在、JHFでは二つの機体登録制度、「型式登録」と「機材情報登録」を運用しています。

日本のハンググライディング初期に始まった「型式登録」は、現在、JHF安全性委員会が審査し判定しています。手続きが完了した機体に登録番号を付与、JHFが登録証明書を発行します。

また、2010年11月より「機材情報登録」を、より広い範囲の機体情報を提供するために追加運用しています。この「機材情報登録」は、輸入者／製造

者／販売者が、販売機材を届け出て登録を行うことで責任の所在を明らかにし、JHFとして実態を把握することを目的としています。

1980年から現在までに登録されたハンググライダー・パラグライダーの情報は、JHFウェブサイト、安全性委員会のページの「登録機リスト」に掲載していますのでご覧ください。

また、同委員会ページの「セーフティノート」には、DHV（ドイツのハンググライディング&パラグライディング協会）やメーカーからの機材の安全に関する大切な情報を掲載しています。あなたの機材も該当しているかもしれません。ぜひご確認ください。

機材情報登録機		
登録番号	P-0149～0152	P-0153～0156
登録年月日	2017年 3月24日	2017年 3月24日
製造者	UP	UP
製造国	ドイツ	ドイツ
型式	Summit XC4	Trango X-Race
認証	EN	EN
クラス	B	C
飛行総重量(kg)	65～130	63～130
輸入者名(販売者)	さんじゅう	さんじゅう
URL	www.sanjuu.com	www.sanjuu.com

学連ニュース

2016年2月28日から3月3日の間、茨城県足尾山エリアにて全日本パラグライダー学生選手権（通称パラ学）が開催され、全国の学生たちが競技でし

のぎを削りあいました。
この1日後の3月4日、大会で集まった一部の学連役員に加え、ハングの役員たちも全国から加わって、学連総会が開催されました。年に1回開催される学連総会は、学生フライヤーによって構成される日本学生フライヤー連盟の役員による集会で、役員による前年度の活動報告及び反省や来年度役員への引継ぎ、また諸問題に対する議論の場となります。

今回は理事長の中山拓哉（足尾、東工大）主導のもと、役職ごとに活動報

告及び反省資料の作成を事前に行い、新担当者に総会の場で引き継ぎを行いました。

ここで役職について補足しますと、理事長、副理事長、会計、広報、ホームページ係、学連の大会のルールを決定するハング審議・パラ審議、大会時に集計を行うハングリーグ・パラリーグ、そして各地域の担当者である支部（東北・関東・北陸・関西・中国・九州）などがあります。学連自身の運営にかかわる役職から、大会の運営に大きくかかわってくるような役職まで、しっかりと引き継ぎが行われました。

また、理事長の中山と、新理事長の堀聡史（足尾、日大、前関東支部）が主になって、パラの新しい学生大会やパラの合宿、ハング大会の開催時期などの計画についても議論が行われ、調整が進められています。

予算に関する議論では、会計と新会計が主担当となって、今年度決算、来年度予算、また遠征補助金制度の見直し、JHF登録の補助制度といった、大会やイベントの活性化につながる話題への議論も行われました。

遠征補助金システムは2016年度に新設された制度で、学生リーグ公認大会以外の社会人大会や草大会などに対する補助金を車1台当たりの片道移動距離に応じて補助するものです。片道

251km～500kmは3000円／台、501km以上は6000円／台が支給されます。

JHF登録補助はJPAエリアの学生がJHFエリアの大会に出場する際の負担を減ずる制度です。

これらの制度は学生の中でも実験的に試されている制度で、知らない学生も多いと思います。まずはこれらを十分に学生に普及させて利用してもらう必要がありますね。

学連役員だけでなく、広くエリアを超えてフライヤー同士がつながりを持って情報共有や大会で切磋琢磨することができる環境を作る。このような目標のもと、学連は2017年度も邁進してまいりますので、社会人フライヤーの皆様にはどうか優しく、時に厳しく見守っていただけると幸いです。今年度もよろしくお願いします。

（文責：石田渉）



2016年尾神岳スチューデントカップより。



さまざまな意見が出た学連総会。撮影：大西里佳

多賀純一、松田隆至が年間XCチャンピオンに。

楽しく安全に、かつ緻密に大胆に

2016年1月1日から12月31日までのフライトで、パラグライディング・ハンググライディングの2016年クロスカントリー（XC）リーグ年間チャンピオンが決まりました。今回も上位者のフライトのほとんどが茨城県足尾山から出発したものでした。

すでに2017年クロスカントリーシーズンまっただな。XCパイロットたちは技術と頭脳を駆使してより遠くをめざしています。これからでも遅くありません。あなたもぜひXCリーグにご参加を。

*パラグライディングXCリーグはフライト4本の合計距離で順位を決めています。

パラグライディングXCリーグ

1位 多賀 純一 神奈川 計415.9km
2位 中川 喜昭 茨 城 計414.3km
3位 二三四藤昭 神奈川 計315.5km
4位 中目みどり 東 京 計313.2km
5位 吉田 裕計 千 葉 計276.8km
6位 五位渕孝幸 茨 城 計324.6km
最長飛行 中川 喜昭 154.1km
(茨城県足尾山→福島県二本松市)



1 位 多賀 純一

春のXCシーズンの最後に七曲エリアでフライトし、2位の中川さんを僅差で抜き、初めての合計400km台に届

いてXCリーグで優勝でき、大変嬉しく思っています。

2016年は最後まで気の抜けない競争を楽しむことができました。

次は100km以上4本と、最長距離で日本記録更新を目指したいと思っています！



最長飛行 中川喜昭

昨年に続いて年間最長距離を飛べたことを嬉しく思います。

この日、2016年4月20日は最大高度が1800m程度と、それほど上がらないものの南風が調子良く吹いていました。特に福島県に入ってから南風が強まり距離が一気に伸びました。郡山市を過ぎた後は1000m前後の高度で北上を続け、二本松市北部に至りました。

昨シーズンはなかなか100kmを越えることができなくて諦めかけていたところ、唯一の100km越えが好運にも最長距離となりました。フライトの最後には福島市も見えていて、弱くても高度維持できるリフトさえあれば、南風に乗って記録更新になっていたかもしれません。

ハンググライディングXCリーグ

1位 松田 隆至 東京 212.08km
(茨城県足尾山→宮城県刈田郡)
2位 佐々木則生 埼玉 181.20km
(茨城県足尾山→福島県伊達郡)

3位 石坂 繁人 茨城 160.65km
(茨城県足尾山→福島県喜多方市)

4位 砂間 隆司 鳥取 81.63km
(岡山県大佐山→兵庫県佐用郡)

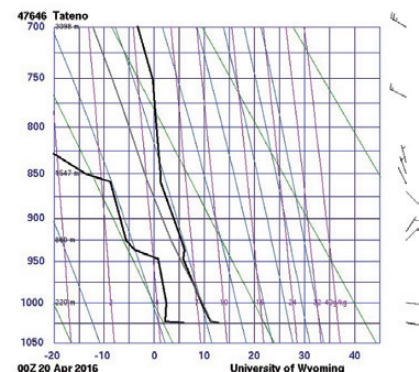


1 位 (クラス5)

松田 隆至

当日（2016年4月20日）は移動性高気圧の中心が関東から抜けるところで、東北地方まで南風が抜ける予報でした。予想高度は1400m雲底で、私の実際の最高高度は本宮市で1900mでしたが、特別の好条件という日ではなかったです。

足尾からのクロスカントリーフライトで距離を延ばすためのコースは、山越えをしていく山形ルートだと考えられていますが、越えられる条件ではないと判断して、中通りをまっすぐ行くルートを選びました。このルートは福



2016年4月20日、館野のエマグラム。

2016 XCリーグを振り返って

2016年のXCリーグには32名が参加、73本のフライトが申請された。2015年と比較して参加人数は2名増えたがフライト本数は20本少なかった。これは気象条件によるものであろう。100km超のフライトも10本から4本に減少している。

ひとつ2016年で注目されることがある。XCといえば足尾といわれるほど筑波山系がXCフライトのメッカとなっている（これは、気象条件

的に南風に乗って北に流しやすい地形であることと大部分が平野上空を飛行するため、プレッシャーがあまりかからないこと、また回収し易い（公共交通機関を使うことも含め）ことが主な要因であろう）が、2016年は足尾以外のエリアでのフライトが約20%と、前年の5%から大きくジャンプアップしたことだ。これは、XCフライトにチャレンジできるエリアが増えたことと、そこでXCフ

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

ライトにチャレンジしようとするパイロットが増えたことが要因と考えられる。

新しいエリアで新しいパイロットがXCフライトにチャレンジしてくれるようになるのは頼もしいし、XCはフライトの醍醐味でもあるのは明白であるが、くれぐれも安全に留意し、悪い方向でメディアに取り上げられることの無いように楽しんでほしい。

自由に機体を操り、気流を読んで風に乗る。

自分の持てる全ての力と知識や経験、技術を駆使しサーマルを探して、より高く、そしてより遠くへ飛んでいくクロスカントリーフライトができるのは限られた季節と限られたパイロットだ。

機体の性能は上がり可能性が広がってもその時、その場所に、その条件のもとで飛ばなければ記録は生まれない。

昨年のフリーディスタンスのトップはクラス5の松田選手の212.08km。

これは足尾エリアから宮城県蔵王町まで飛んだものだ。記録更新のために山形方向より宮城方向に飛ぶコースを選んでいる。

クラス1のトップは試乗機で飛んで行った石坂選手の160.65km。これも足尾エリアから福島県喜多方市までの記録だ。

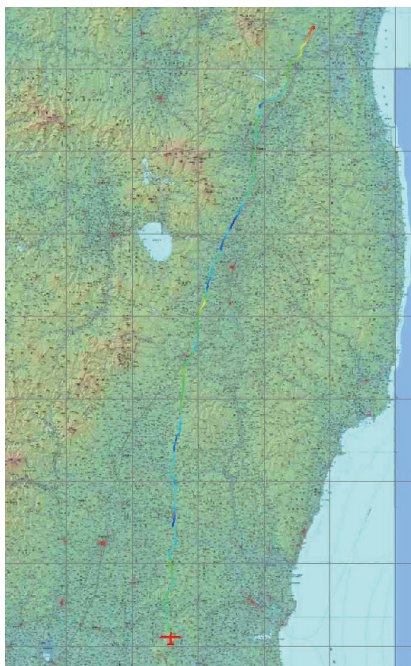
今年もベストシーズンを迎え、それぞれが自身の目標を立て、安全第

一でクロスカントリーにチャレンジしてほしい。

今年、ハング競技委員会は従来のフリーディスタンスの他にアウトアンドリターン、トライアングル、デュレーションの4種で飛距離（デュレーションは滞空時間）を競う「フライトコンテスト」を新設した。

フライヤー会員なら誰でも気軽に参加できるようにデュレーションも入れて幅を持たせたので、より多くの人に挑戦してほしいと思う。

島市の先で仙台湾からの海風につかり降りてしまうのが今までのパターンですが、いくらか海風をさけることができたようで、このルートの記録を更新することができました。



このようなビッグフライトができるのは、いつも回収に走ってくれる方々のおかげです。この場を借りて感謝申し上げます。この日は足尾スタッフの瑠璃君が並走して走ってくれたので、安心して飛ぶことができました。ありがとうございました。



3位（クラス1 首位）
石坂 繁人

2016年3月29日に、国内自己記録の100マイル（160km）フライトを達成しました。

当日は80km地点で一旦曇ってしまいましたが、日照が回復するまで弱いリフトで粘り続けられたことでさらに駒を進めることができました（ウインドスポーツ様、試乗機の提供、ありがとうございました）。肉眼で見る磐梯山の険しい頂や雪に覆われた桧原湖はネットで見る衛星画像とは全く別物で、神々しささえ感じました。



上：松田隆至さん212km飛行のトラックログ。下：正面に蔵王を臨むランディング地点で。

また、喜多方市の上空で同じ足尾エリアからテイクオフした別のパイロットとばったり遭遇するなど、ハングの神秘性を感じさせられる一本でもありました。

クロカンにはこのようなドラマが付き物！ だからこそ5時間40分飛んでも全く疲労を感じませんでした。今回の経験をもとに、あらためてルートを練り直し、日本記録の213kmの更新を狙いたいと思います。最後に、回収に協力してくださった皆様、ありがとうございました。

HGフライトコンテスト 気軽にご参加ください

ハンググライディング競技委員会ではクロスカントリーリーグの活性化を検討してきましたが、もっと多くのフライヤーが参加できるように、これまでのフリーディスタンスのほか、アウトアンドリターン、トライアングル、デュレーションの各部門を加え、名称も「ハンググライディングフライトコンテスト」とすることを決定。理事会の承認を得て、2017年1月1日からスタートしました。

クロスカントリーリーグは敷居が高いと思っていた方も気軽に参加してください。「有効なJHFフライヤー登録証を所有するフライヤー」が対象です。それぞれの部門のルールはFAIのセクション7に則り、フライト後2ヶ月以内に必要書類（フライトのGPSログ・申請用紙）を添えて本人が申請します。参加費は無料。年間上位3名を表彰。

強風と雪に阻まれ無念の不成立。

2月9日-12日 和歌山県紀ノ川市紀の川フライトパーク 報告：大会実行委員長 外村 仁克

2月9日より開催された2017ハンググライディング日本選手権IN紀の川スカイグランプリは、残念ながら天候に恵まれなかった。東シナ海や四国沖などで発生し、日本列島の南海上を発達しながら東～北東へ進むいわゆる南岸低気圧の影響をもちに受け、4日間のうち3日が飛行はおろか、テイクオフへ上がることさえもできない積雪に見舞われた。最終日、選手のボランティアを含む22名の除雪作業のお陰で競技を行うことができたが、1本成立となり日本選手権者を選ぶことは叶わなかった。各地で寒波による積雪の被害が報道される中、本州で一番緯度の低い和歌山県でさえも強風と雪には敵わなかった。

2月9日 雨

天気図を見てみると、四国沖に1002hPaほどの低気圧が現れ、当地の平均的な2月の気象から考えると、そのまま東進して翌日には影響を及ぼさなくなる程度のものである。この低気圧がこれから3日間に渡り発達し雪を降らせたのは、この時期にあわせてシベリアからの強烈な寒波が太平洋側まで達していたせいであろう。通常3月に現れることが多い南岸低気圧が2月初旬に発生したようである。

2月10日・11日 雪 強風

9日に現れた南岸低気圧は11日にかけて太平洋を北東進し、966hPaにまで発達していった。

最終日の12日は強風が残るものの天候は回復すると予報され、競技ができる可能性が出てきた。積雪でグライダーをテイクオフまで運搬できないため、山道の除雪作業が必要であった。スタッフ全員で作業しても1日では不可能と思われたが、選手の協力があり総勢22名の除雪チームが作業に当たってくれた。それでも4時間を超える作業ではあったが、12日の登頂には万全の準備ができた。

2月12日 最終日

海拔600mのテイクオフで5m/s近い風のなか41.8kmのタスクがセットされ、51名の選手が競技に参加した。

20名のゴール者が出て競技は成立、優勝の板垣直樹選手のタイムは1時間22分12秒で、2位の鈴木由路選手に8分近い差をつけた。2位以下との点差が100点以上となったのも、如何に板垣選手が速いかを証明している。3位には砂間隆司選手、4位に鈴木博司選手であったが、5位に野尻知里選手がつけていることが注目である。強い向かい風のタスクでもウィングローディングの不利を高い技術で補い戦うことができることを証明していると思う。

もうひとつ、報告者はタスク・セーフティコミッティの技量を称えたい。単純な往復タスクに見えるが、強風時のエリアを熟知していなければ、選手が全員、安全に競技を楽しめるタスクは作れないからである。

成績

[総合]

1位	板垣 直樹	茨城	1000点
2位	鈴木 由路	東京	896点
3位	砂間 隆司	鳥取	834点
4位	鈴木 博司	岐阜	822点
5位	野尻 知里	茨城	809点
6位	田中 元気	東京	788点



除雪チームの奮闘のおかげで最終日の競技が可能に。



入賞者。後列左から鈴木由路、板垣、砂間、前列左から田中、鈴木博司、野尻、各選手。



選手・役員の皆さん、お疲れさまでした！

パラグライディング世界選手権出場者を決定

今年開催されるアキュラシーとクロスカントリーのパラグライディング世界選手権に向け、日本を代表するパイロットをランキング上位者から決定しました（一部仮決定）。

選ばれたパイロットたちが世界という舞台で持てる力を存分に発揮できるように、気象条件に恵まれ納得の競技ができるようにと願います。

●第9回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権

開催日：5月5日～14日

開催地：アルバニア VLORA

パイロット：

岡 芳樹 古田 武史

小松 理樹 川村 真

伊藤まり子 山口 香代

チームリーダー：岡 芳樹

●第15回FAIパラグライディング世界選手権

開催日：7月1日～15日

開催地：イタリア Monte Avena

パイロット：

上山 太郎 呉本 圭樹

廣川 靖晃

平木 啓子

チームリーダー：岡 芳樹

アキュラシーのおもしろさは やってみなくちゃわからない

その1

日本では2006年にリーグ戦が始まったパラグライディングアキュラシー競技。何を競うかというと、ズバリ着陸精度のみ。飛んできて最初に足裏が接地したところがターゲット中心に近ければ近いほど高得点という、わかりやすい競技だ。

公式大会での得点計算方法は、中心から接地点までの距離が1cm=1ポイントで換算されるという、これまたわかりやすいもの。中心の直径2cmのデッドセンター（DC）を踏めば、最高点の0ポイント。ただし、バランスを崩して足裏以外で接地（転倒など）したり、半径10mゾーンをはずしたりすると、最大点つまり最低点の1000ポイントがついてしまう。

そう、クロスカントリー競技と違って、アキュラシーではポイントが低いほど好成績なのだ。レベルの高い大会

では、一桁のポイントが続出する。

5ラウンド（5本）以上の競技フライトが成立すると、その選手の最低得点が消去される。もし転んで1000ポイントをもらっても、一度だけなら挽回のチャンスがあるということだ。

パラグライディングの基本中の基本であるランディング。その精度を競うのだから、ある程度の実力*があるフライヤーなら誰でも競技に参加できる。特別なレーシング機材や装備も不要。気象条件に恵まれれば1日に何ラウンドも飛べる。「アキュラシーなんて、おもしろいのかなあ……」と思っているあなた、まずは大会を体験してみてはいかが？

観戦する人たちにも、どの選手が高得点を獲得したのか、一目瞭然。その

場で順位の変動もわかるので、広く一般にパラグライディングを知ってもらうのにもアキュラシーはうってつけ。来年インドネシアで開催予定のアジア競技大会**でもアキュラシー競技が行われることが正式に決まりました。

□

今号から、アキュラシー競技を紹介しながら、アキュラシーにはまってしまった人たちに、そのおもしろさを語ってもらいます。

一番手は、昨年のアキュラシー日本選手権で大会デビューし、いきなりハンディキャップクラス優勝を決めた松原正幸さん。松原さんはパラグライディング歴24年。日本代表選手として世界を舞台に活躍したほか、過酷なXCレースであるレッドブル・エックスアルプスに2回出場しています。

□



「アキュラシーのどこがおもしろいかというと、風の読みも含めて、すべてが自分の技量による

ところですね。他の選手と競っているんですけど、実は自分自身が相手なんです。練習や経験を積んでどれだけ力をつけたか、それが競技結果としてすぐわかる。とにかくわかりやすいのがおもしろいです。

アキュラシーはオリンピック種目に採用される可能性が高く、しかも敷居が低い。誰でも気軽に大会に参加できるから、もっとたくさんの人に楽しんでもらって、切磋琢磨して日本のレベルがどんどん上がっていくといいなと思っています。」

*大会参加資格

JHFのパラグライディングアキュラシージャパンリーグ（PAJL）の大会は、技能証明した教員またはエリア教員の承認があればノービスパイロットから参加できる。もちろんJHFフライヤー登録が有効であること。

**アジア競技大会

アジアオリンピック評議会（OCA）が主催するアジア地域を対象にした国際総合競技大会。原則4年ごとの開催。アジアのオリンピックともいわれる。2018年8月18日～9月2日に第18回大会がインドネシアのジャカルタで開催される予定。今年2月には冬季大会が札幌で開かれた。



JHFからのお知らせ

■補助動力副読本を頒布しています

「JHFパラグライディング教本副読本[動力付きパラグライダー（補助動力技能証／MPG技能証課程）]」を頒布中。

動力を使用したパラグライディングの練習のポイントと最低限の基礎知識を載せており、パラグライディング教本とともに繰り返し読んで、安全で楽しいフライト活動の助けにさせていただくものです。初心者の方はもちろん、すでに技能証をお持ちの方も、ぜひお読みください。

価格・申込方法：

頒布価格1,000円（送料別）。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。注文書はJHFウェブサイト「書籍情報」からダウンロードできます。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中です

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作で

の動きをはっきりと見る事ができ、判りやすく表現されています。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

価格・申込方法：

頒布価格それぞれ1枚1,500円（送料込）で、お申し込み10枚毎に2枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。

■住所を変更したらお知らせください

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでJHF事務局にご連絡ください。

フライヤー会員No.／お名前／変更後のご住所／連絡先電話番号／メールアドレス

会費を銀行口座振替・コンビニ送金される場合、銀行等から新住所の連絡はありません。

カレンダー写真を募集します

2018年JHFカレンダーの画材として使用するために、ハンググライダー、パラグライダーを中心にした季節感のある楽しい写真を募集します。

応募していただいた作品の中から13作品を採用させていただき、カレンダーの表紙と1月から12月の各月に掲載する予定です。

応募締切は8月31日（木）。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。

このカレンダーは一般に販売するほか、新聞社や他のスポーツ団体、行政機関等にも配布しています。ぜひご応募ください。皆さんのご協力をお願いします。

■お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp

http://jhf.hangpara.or.jp/

*このJHFレポートには賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県、静岡県在住の方には、各県連盟からのお知らせも同封しています。JHF総合保障制度のパンフレットもぜひご覧ください。

上空利用可能デジタル無線機使用のお薦め

平成34年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。これまでSTANDARD製のVX-291SとVXD450Sの2機種のみでしたが、最近、軽量小型のICOM製IC-DPR30が加わりました。

JHF賛助会員（JHFウェブサイト）にバナーを掲載）からも購入するこ

とができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を14台保有し、登録会員に貸し出しをしています。ご希望の方は上記の「JHF備品を貸し出しています」に沿ってお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。うっかり忘れていたということのないようお願いします。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート217号

発行日：2017年（平成29年）4月20日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社サンライズ